



## 夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第44号(R5. 1. 16)

### 新専門委員長の決意表明 Part3

生徒会の新しい専門委員長が誕生しました。今回が最終回で給食委員長と文化図書委員長の抱負です。

#### 【 給食委員長 藤野 琴子 さん 】

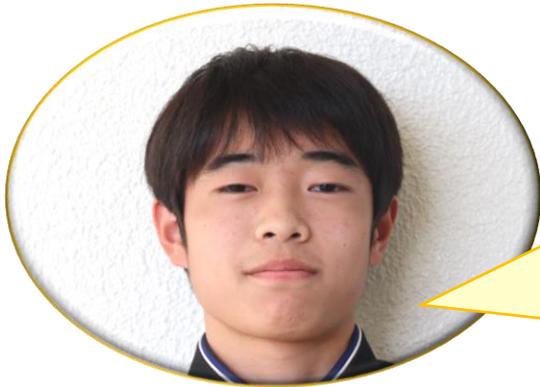
こんにちは。給食委員長の藤野琴子です。委員長に選ばれたときは、憧れの生徒会に入れて嬉しいという気持ちと、自分にできるかという不安な気持ちがありました。ですが、今、本格的に生徒会の取り組みをしてみても自分に足りないところをたくさん見つけることができました。

なので、生徒会役員になっての目標は、学校全体を引っ張っていける力と、常にアンテナを張り、心配り・目配り・心配りをできるようにすることです。また、給食委員会でも新しい取り組みをしていこうと思います。



#### 【 給食委員長 上野 幹太 さん 】

僕は給食委員長になり、今までより学校を楽しくするという目標を活動していきたいと思っています。体育祭や文化祭などでも、今までとは少し違うものにしていけるように一生懸命頑張ります。給食委員長としての取り組みは、今までより時間を守れるように全力を尽くして活動していきたいです。今までのWHM大作戦に続いて、新しいチャレンジや音楽を使って工夫をしていきます。これから失敗したり、不安になったりすることがたくさんあると思いますが、精一杯頑張っていきます。



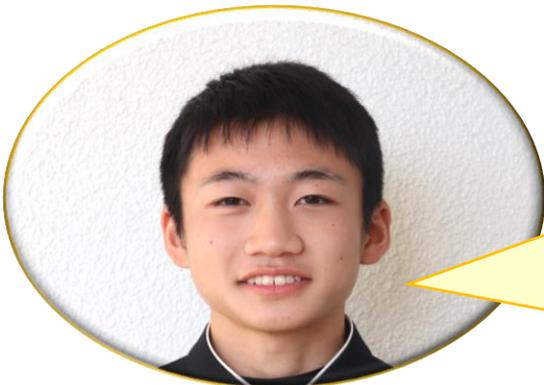
#### 【 文化図書委員長 中原 風香 さん 】

私は文化図書委員長として、先輩方がつないできた伝統を次につなぐことを目標に一生懸命取り組んでいきたいと思っています。本年度から始まった合唱コンクールは、経験を活かして最高の合唱コンクール・文化祭にしていきたいです。また、普段の本の返却やビブリオバトル、読書の楽しさをみなさんに伝えていけるよう、全力で努めていきますのでよろしくお願いします。他の学校行事も生徒全員で協力して最高のものにしていきましょう。



#### 【 文化図書委員長 與田 寛介 さん 】

今回、新しく文化図書委員長になりました與田寛介です。文化図書委員会では、ビブリオバトルや読書会などをはじめ、文化祭などさまざまなイベントが行われます。僕は、そのようなイベントを文化図書委員長として積極的に引っ張っていけるように頑張ります。また、河東中学校のみなさんにたくさん本を読んでもらえるように、丁寧に分かりやすくPOPを書けるように頑張っていきます。一年間よろしくお願いします。



## 「これからの時代、どんな人を育てていくべきですか？」

この質問に中村哲さんはこう答えました・・・

3年前の冬、福岡出身の医師、中村哲さんがアフガニスタンで亡くなりました。車で移動中、現地の武装集団に銃撃され、亡くなられたというニュースはいまだに忘れられません。

中村さんは、40年前からアフガニスタンで医療活動を行い、たくさんの現地の人たちの命を救ってきました。アフガニスタンは、繰り返し戦争に見舞われ、干ばつや水不足による栄養失調や感染症により、年間、多数の人が命を奪われています。アフガニスタンでは、子どもの6人に1人が5歳以下で亡くなっているそうです。中村さんは、「だれもそこに行かないから、わたしたちが行いくのです。だれもしないことだから、わたしたちがするのです」という思いで現地に駆け付けました。



中村さんは、医療活動と並行して井戸を掘る活動も行ってきました。中村さんのすごいところは、自分が医者ということで医療に携わるのはもちろん、本当に現地の人たちの命と生活を守るために、水と食料の確保を図ろうとしたことです。そのため、聴診器を握っていた手はいつしかブルドーザーのハンドルも握るようになりました。現地では中村さんの指導で1600本の井戸が掘られました。また、農業用水のための用水路を27キロ作りました。福岡市の面積の半分の広さを農業用地に変えて、65万人の生活が維持できるようになりました。医者という発想を捨て、飲料水・農業用水・畑作地の開拓に活動の幅を広げて、トータルで現地の人々の命を救い生活の向上に貢献しました。「100の診療所より1つの用水路を」と言った中村さんの発想が反映されています。また、「砂漠を緑に変えたお医者さん」と言われるゆえんでもあります。

中村さんは、福岡市で生まれ、小学校は古賀市の古賀西小学校に通いました。県立福岡高校、九州大学医学部と進学します。高校時代、友人に「将来、人の役に立つ仕事がしたい」とよく話していたそうです。子どものころから自然や昆虫が好きで、アフガニスタンには珍しいちょうを採しに入っ好き国になったそうです。

中村さんが座右の銘にしていたのが「一隅を照らす」という言葉です。一隅とは、かたすみということです。自分の力で世の中のかたすみでいいから光を当て明るくしたいという思いです。自分が今いる場所で自分ができることを一生懸命にやるという意味も含まれています。(この言葉については、学校だより第7号に詳しく載せていますので参考にしてください)

中村さんがあるインタビューで語った言葉を紹介します。中村さんは、あるインタビューでこう聞かれました。「これからの時代、どんな人を育てていくべきですか？」この質問に、中村さんは、こう答えています。

「これからの時代、どんな人を育てていくべきか。誰か泣いている人がいたら、『どうして泣いているの?』とかけよることができる気立ての良い子どもが増えてほしい」と語っていました。

中村さんが亡くなったことは、大変悲しいことですが、これだけのことをやった日本人がいたことは誇らしいことだと思います。そして、福岡の人であることも知っておいてほしいと思います。